

平成25年度に建設工事で発生した事故事例（墜落・転落事故）

事故概要：

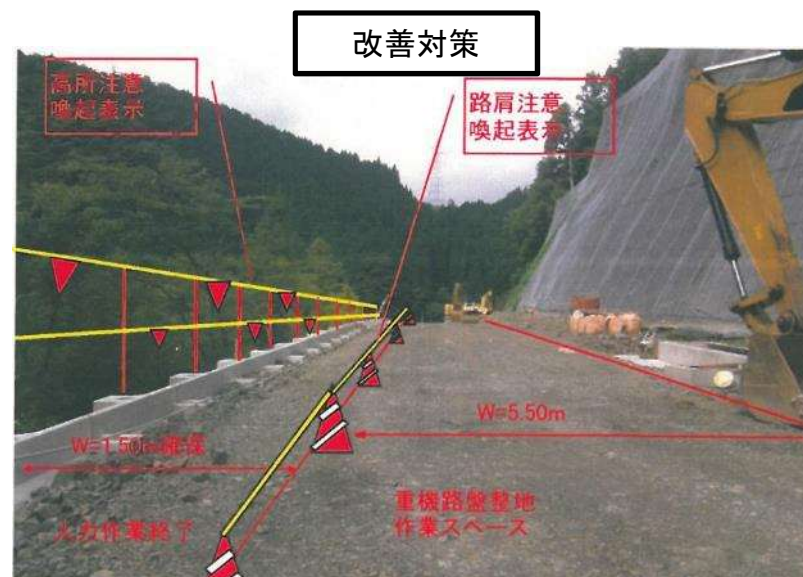
バックホウを移動しようとしたところ、誤操作によりバケットが旋回し、バケットが作業員に当たり路側の補強土壁下に転落した。

事故原因：

- ・運転手が重機を誤操作した。
- ・重機の旋回範囲内に作業員がいるにもかかわらず、動かす合図・退避指示を行わず動かした。
- ・監視役だった者が重機を動かしたため、監視役が不在の状態となった。
- ・高所作業だが転落防止対策を講じていなかった。

改善対策：

- ・操作に慣れた仙人の運転手が操作パターンを確認。
- ・旋回範囲内に人がいる場合は動かさない。
- ・重機は選任の者が運転する。
- ・転落防止対策を講じる。



分類：土工、BH移動

被害状況：約3か月の安静加療（外傷性くも膜下出血、脳挫傷、胸骨・肋骨椎体・腰椎骨折、肝損傷）

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（架空線損傷事故）

事故概要:

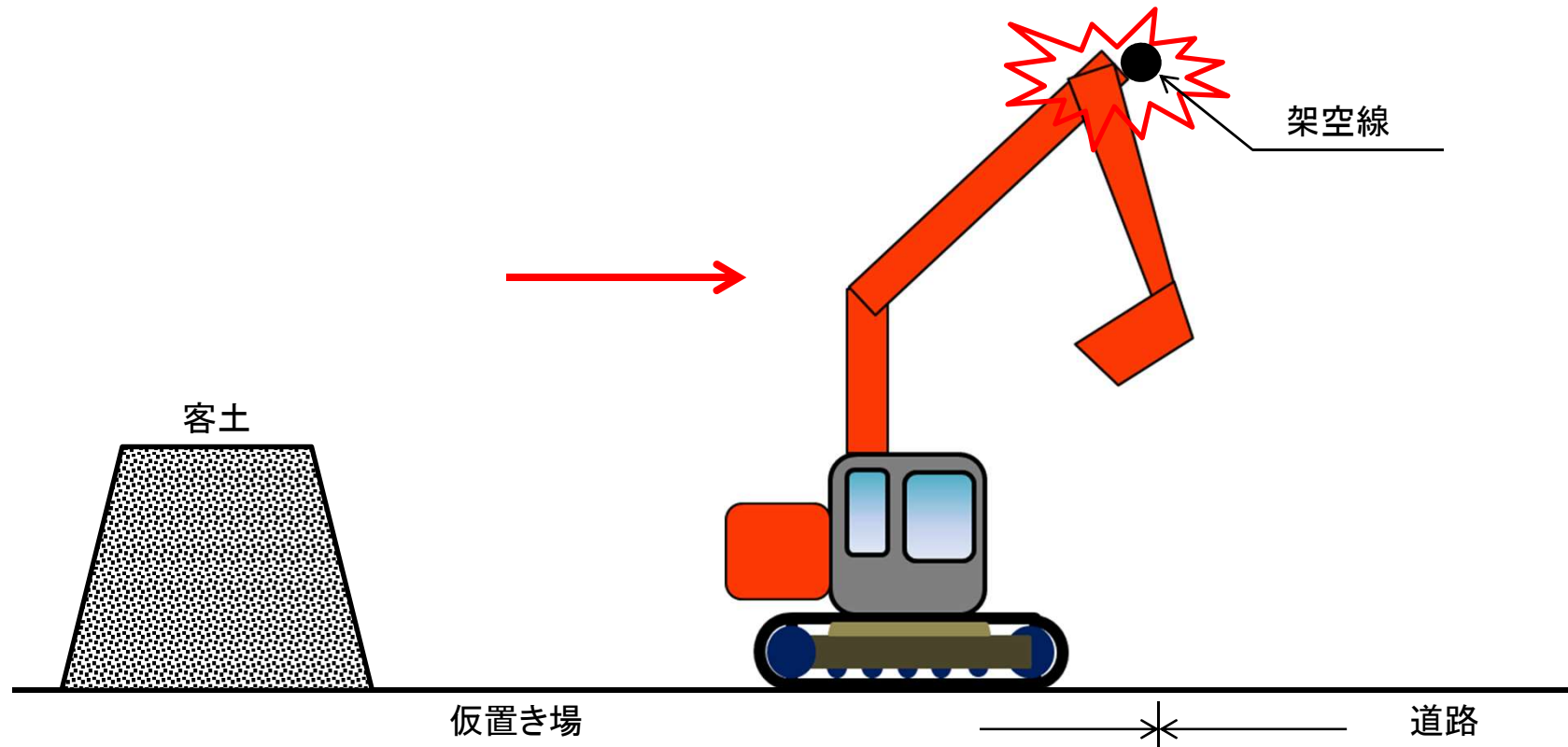
客土を仮置き場から4tダンプに積込む作業を0.2m³級バックホウで行っていたが、効率が悪いので、0.25m³級バックホウへ入れ替えようと、0.2m³級バックホウを道路上へ移動させようとした際、アームを伸ばしたまま回転させたため、誤って電話線を切断させた

事故原因:

- ・監視員等の保安措置を講じていなかった

改善対策:

- ・監視員等の保安措置を講じていなかった
- ・安全教育の徹底



分類: 土工、BH移動

被害状況: 電話線を切断(通信障害の被害報告は無かった)

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（地下埋設物損傷事故）

事故概要:

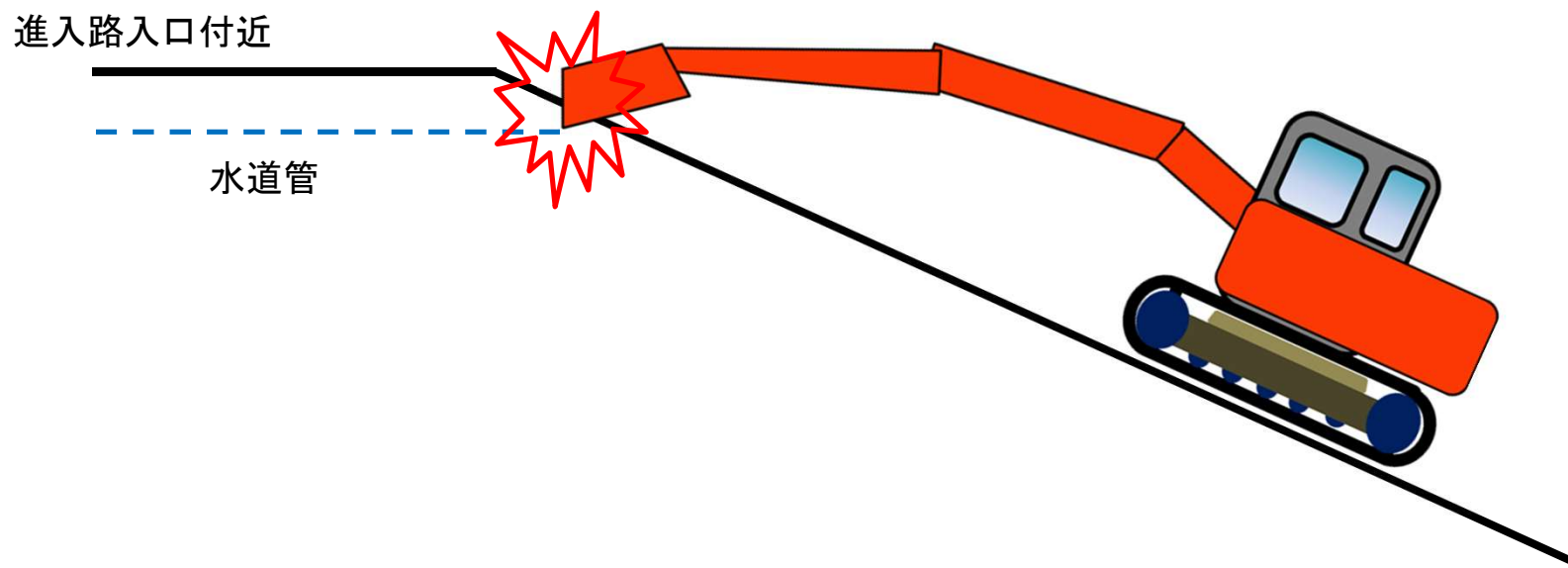
埋戻し作業中、仮設進入路入口付近を整地しようと、仮設進入路を上がる際に斜面を上るためバックホウのバケットを前面の路面にひっかけ、反力にして上ろうとしたところ、路面下部にあった水道管に引っ掛け、手前に引っ張ったことによりジョイントから水道管が抜けて漏水させた

事故原因:

- ・埋設箇所の明示が不足していた(杭設置のみ)
- ・埋設物への認識が不足していた

改善対策:

- ・危険個所を赤旗ロープで囲い更なる注意喚起を促す
- ・安全教育の徹底



分類: 土工、BH移動

被害状況: 2世帯2時間、12世帯40分間断水

平成27年度に建設工事で発生した事故事例（飛来物・落下物による事故）

事故概要：

高所斜面掘削機（吊り下げ式バックホウ）を施工場所まで登坂させるため、作業員が山腹斜面上部のアンカー（立木）に連結したワイヤーロープ（仮ワイヤー）と掘削機本体の主ワイヤーを接続する作業中、斜面に向かって左側の森林内から出現したと思われる落石があり、作業員に当たり負傷した

事故原因：

- ・周囲の森林内の浮石の点検や除去は行わなかった
- ・監視員1名では斜面全体の確認が困難であった

改善対策：

- ・周囲の森林内の浮石等の点検や除去を徹底する
- ・監視員を固定1名、追従1名を配置する



分類：土工、BH移動

被害状況：3週間の入院加療（左上腕骨骨折、左肋骨骨折）

平成28年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物損傷事故）

【事故概要】

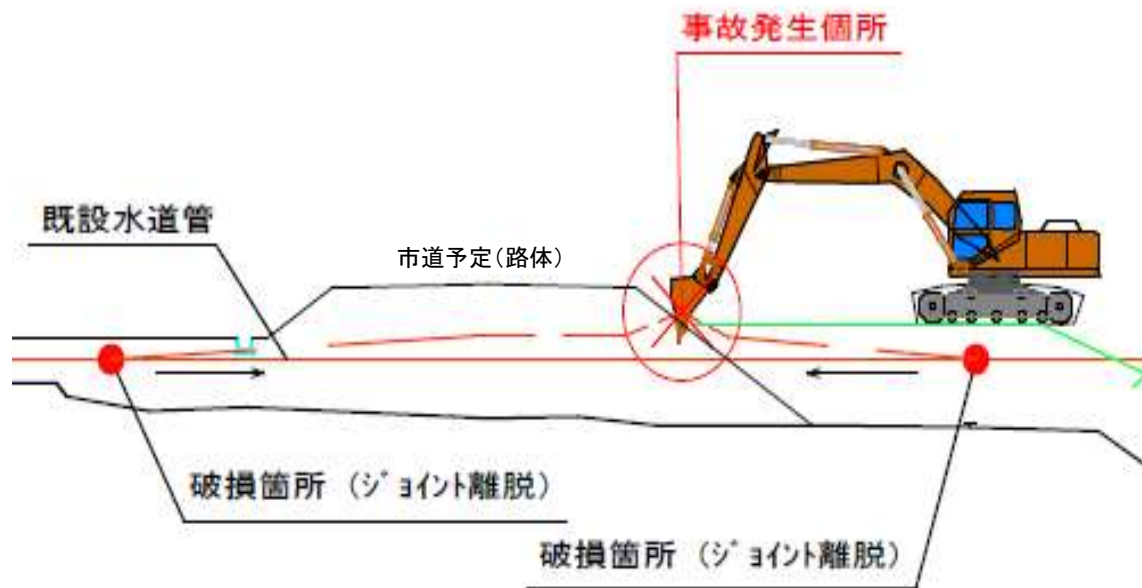
既設の露出水道管（雑用水利用）を埋設しながら残土盛土を実施していたが、敷均し作業中、バックホウで土砂をすくい移動しようとした際、バケットで埋設した水道管を引っ掛けて破損及びジョイント部を離脱させた

【事故原因】

- ・水道管位置の把握が不十分であった
- ・埋設物に対する安全管理体制が不十分であった

【改善対策】

- ・埋設管位置表示の設置（埋設情報シート、ポール等）
- ・安全管理体制の見直し
- ・KY活動及び作業前点検の徹底



分類: 土工、BH移動

被害状況: 水道管破損、ジョイント部離脱

平成28年度に建設工事で発生した事故事例（架空線損傷事故）

【事故概要】

発生土搬出作業において、架空線が近接するため監視員を配置していたが、バックホウによる土砂積み込みが終了し、監視員が一時的に現場を離れた。その際、次の積み込みの準備のため、バックホウ運転者が発生土に含まれる根株の除去作業を開始し、誤ってバックホウのアームを架空線に接触させた

【事故原因】

- ・監視員不在中に単独でバックホウによる作業を実施した

【改善対策】

- ・安全教育の徹底（監視員不在時は架空線下で重機作業しない）
- ・架空線表示、注意看板の増設（運転者の意識を高める）



分類: 土工、BH移動

被害状況: 架空線下垂1.5m、電柱傾斜1本

平成29年度に建設工事で発生した事故事例（架空線損傷事故）

【事故概要】

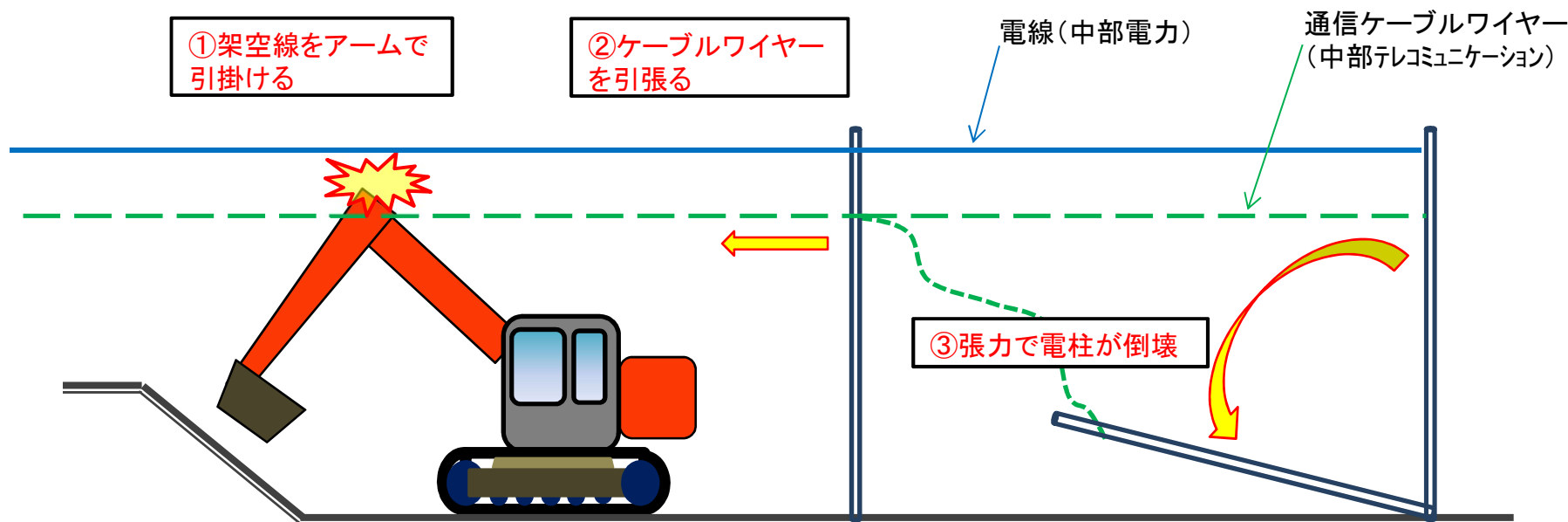
ほ場整備工事において、畦畔の土羽打ち作業を行うため、バックホウを所定位置まで移動させる途中、バックホウアームで頭上の架空線（中部テレコミュニケーション(株)の通信ケーブルワイヤー）を引掛け、その張力で電柱（中部電力(株)）を倒壊したが、電線及び通信ケーブルは切断されなかった。

【事故原因】

- ・工事発生個所の架空線は蛍光テープで表示していたが防護管は設置していなかった
- ・工事発生個所直下には注意看板を設置していなかった
- ・監視員を配置していなかった

【改善対策】

- ・架空線横断個所に監視員（旗、笛を携帯）を配置し、重機オペレータに合図を送る
- ・架空線に防護管を設置する
- ・架空線下の重機走行（横断）場所を限定し、通路を明示する
- ・架空線ありの注意看板を架空線付近に追加設置する



【分類】土工・BH移動

【被害状況】電柱1本倒壊（中部電力(株)）、電線・通信ケーブルは切断されず

平成29年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

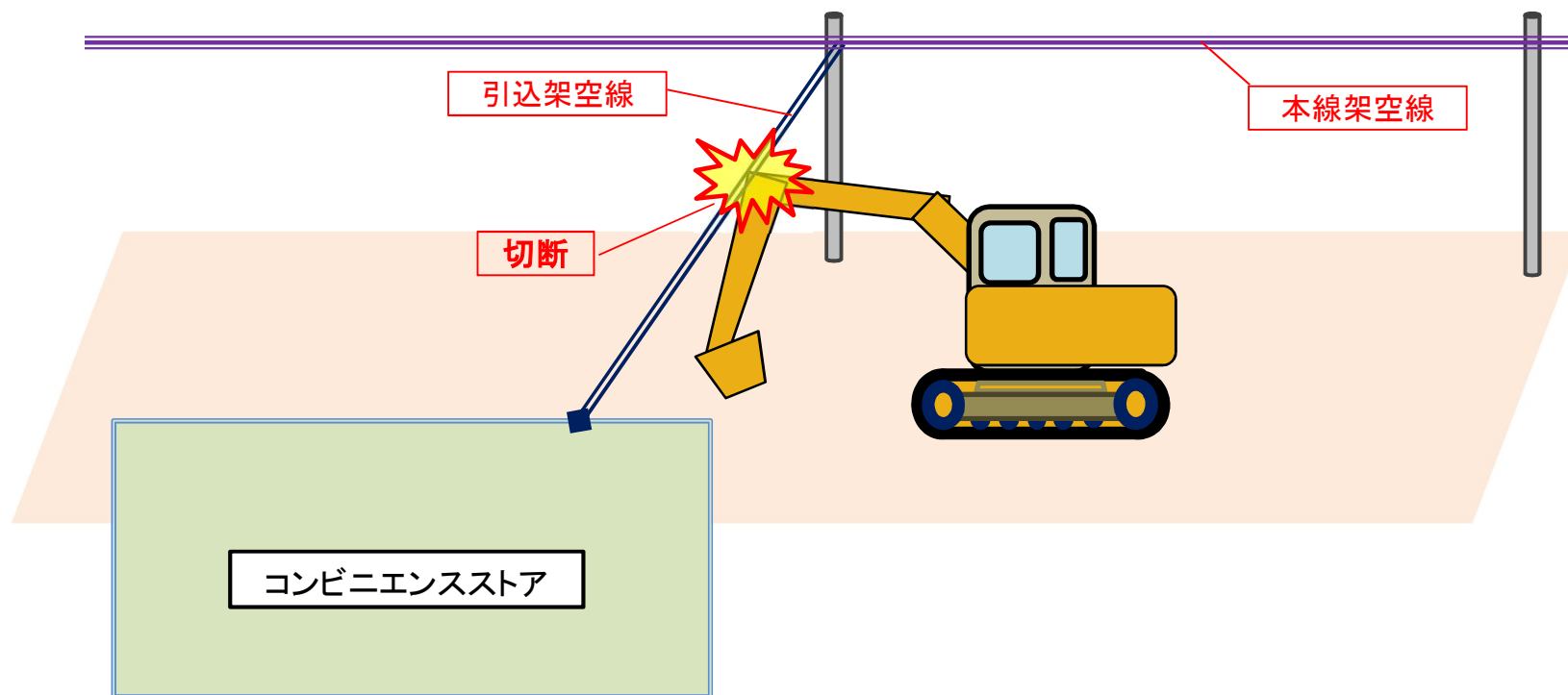
工事現場内の台風対策を実施するためバックホウを移動させていた際、アームを折りたたまず移動したため、架空線（コンビニエンスストアへのNTT引込線：光ケーブル2本、3回線）を破損させた。破損事故により、ATM入出金、チケット販売、商品発注等ができなくなる通信障害が発生し、約7時間20分後に復旧した。

【事故原因】

- ・道路での作業では、誘導員を配置しその誘導により運転することとしていたが、台風対策で人手が不足し重機を移動する誘導員が不在であった
- ・重機のオペレーターが台風対策に焦り、バックホウのアームを折りたたまず移動した

【改善対策】

- ・架空線箇所には単管パイプ等で架空線より約0.5m下に旗付きトラロープを設置しオペレーターに注意喚起を図る
- ・架空線箇所の前後にA型バリケード（「合図者を呼べ」と提示）を設置することで、合図者無しでは重機の往来を不可能にする



【分類】 土工、BH移動

【被害状況】 NTT光ケーブル損傷、コンビニ1軒（通信遮断 約7時間20分）

平成29年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

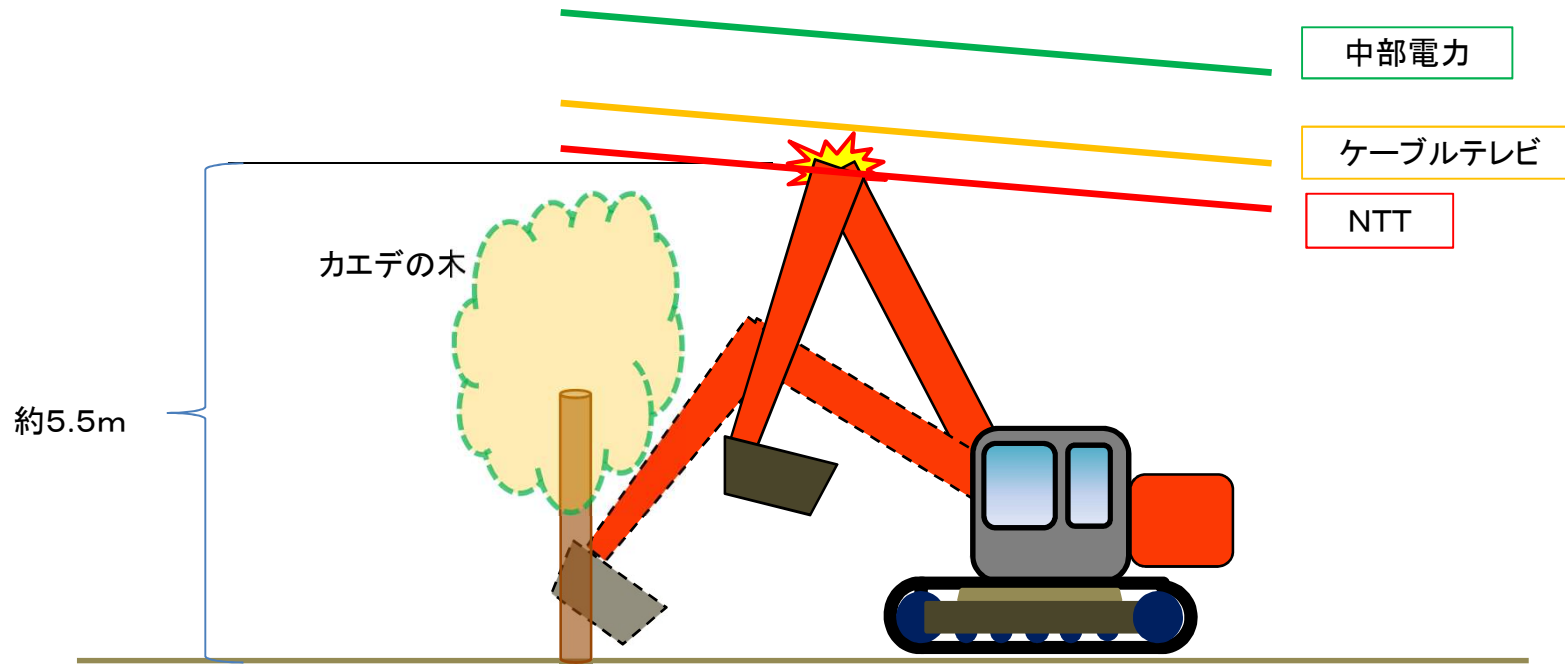
路面整地作業を行っていたバックホウが、山側に寄ってダンプトラックとすれ違い後、元の位置に戻るため旋回して向きを変えようとした際に、近傍のカエデの木を損傷させないようにブームを引き上げたため、アームがNTT架空線に接触し切断させた。

【事故原因】

- ・本体工事現場から離れた箇所の一時的な作業（作業道路面整地）であったため、架空線に対する調査・対策が不十分であった
- ・誘導、監視員が持ち場を離れた
- ・バックホウ運転手の注意不足

【改善対策】

- ・自社の工事事前調査チェックリストに一時的作業時の注意点を追加記載する
- ・誘導、監視員は持ち場を離れない、離れる際は作業を中断する
- ・架空線より低い位置に目印ロープを張る



【分類】 土工、BH移動

NTT線（キャンプ場管理事務所への引込線で、冬期休業のため不使用）

平成31年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

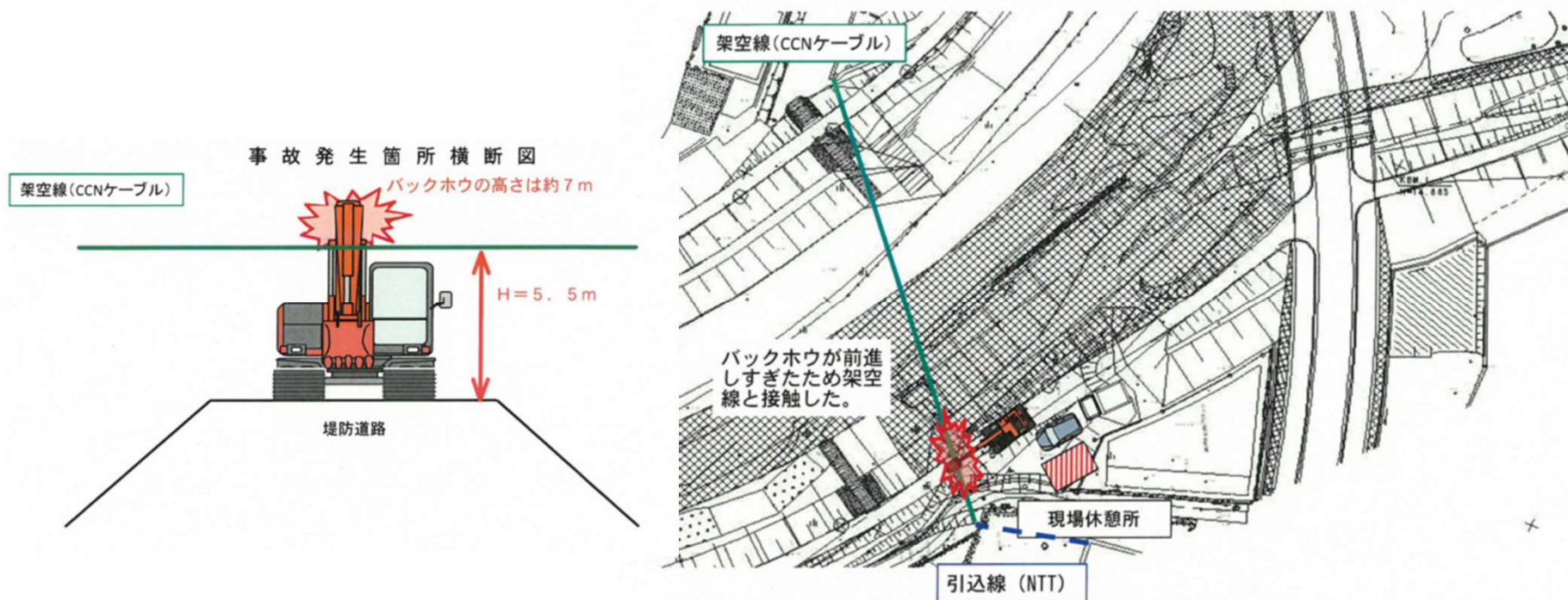
河川護岸工事現場において、堤防天端でバックホウと車両の入替作業中、作業員の不注意等により、ケーブルテレビの架空線に接触断線した。また、同時に個人宅1軒への電話線の引き込み線が外れ電話が不通となる被害も併せて発生した。

【事故原因】

- ・当日は高さ制限バーが撤去されていた。
- ・KY活動で注意喚起はされていたが、作業員の認識不足、注意不足による。
- ・予定外の作業であったにもかかわらず、作業員は、現場代理人、主任技術者への連絡を怠った。

【改善対策】

- ・工事が完了するまで、高さ制限バーを設置
- ・架空線の箇所へ侵入しないようバリケードを設置。
- ・KY活動で架空線位置の確認徹底と重機移動時は見張り員を配置。
- ・予定外の作業が生じた場合は、必ず現場代理人、主任技術者と打ち合わせ等を行う



【分類】 土工 BH移動

【被害状況】 ケーブルテレビ架空線損傷（79世帯回線不通）、NTTケーブル脱落（1世帯回線不通）

令和元年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

道路工事現場にて、バックホウを移動しようとして旋回した際に、現場内を横断するNTTの架線をバックホウアームで引っ掛け切断した。

【事故原因】

- ・架空線が比較的高い位置(H=5.7m)にあり、重機等との接触の可能性は低いとして、看板設置、保護等による事故防止措置を行っていなかった。
- ・主任技術者が、バックホウ移動の指示をする際、運転手へ架空線の確認や注意喚起を怠った。

【改善対策】

- ・架空線は旗付きトラロープ等により明示する。
- ・架空線付近に看板等を設置し、作業員への注意喚起を行う。
- ・架空線近接作業時に、監視員を配置する。

現場状況及び対策



【分類】 仮設工

【被害状況】 NTT架空線切断（1軒 2時間回線不通）

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

工事に伴う借地をバックホウで整地した後、そのバックホウが工事現場へ戻る際、県道を横断したところで、アームがNTT架線に接触し、これを切断した。

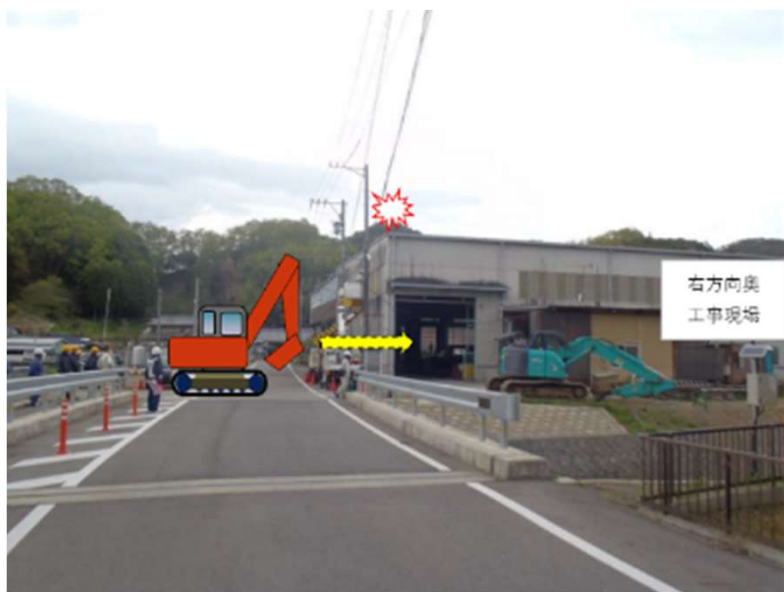
【事故原因】

- ・工事現場外から工事場所へ移動する際、誘導員を配置しなかった。
- ・重機の往来を予定していない搬入路であったため、架空線の防護管や注意看板を設置していなかった。

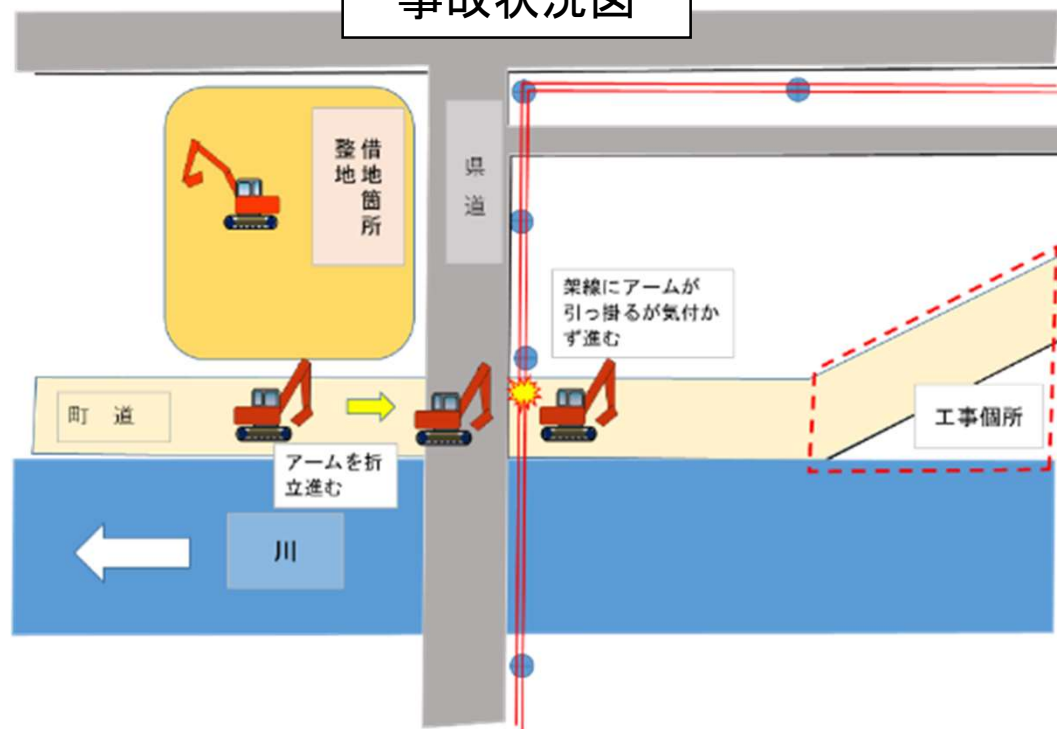
【改善対策】

- ・架空線下を通行する際は誘導員を配置し、重機周辺状況の確認、注意を行う。
- ・搬入路においても工事箇所と同様に、架空線注意表示の明示及びゲートを設置する。
- ・再発防止対策について教育訓練を実施し、安全対策を再徹底。

事故状況写真



事故状況図



【被害状況】公衆災害 NTT架線断線（電話線、光ケーブル） 12軒の回線が5時間25分に亘って回線不通

【分類】 土工 BH移動

令和2年度に建設工事関係業務で発生した事故事例（建設機械転倒事故）

【事故概要】

山中の現場にて、バックホウ進入路設置のため、斜面(約40度)をバックホウで下りようとしたところ、バックホウがバランスを崩し斜面下方へ転倒した。その際に、運転席から投げ出された運転手がバックホウの下敷となった。

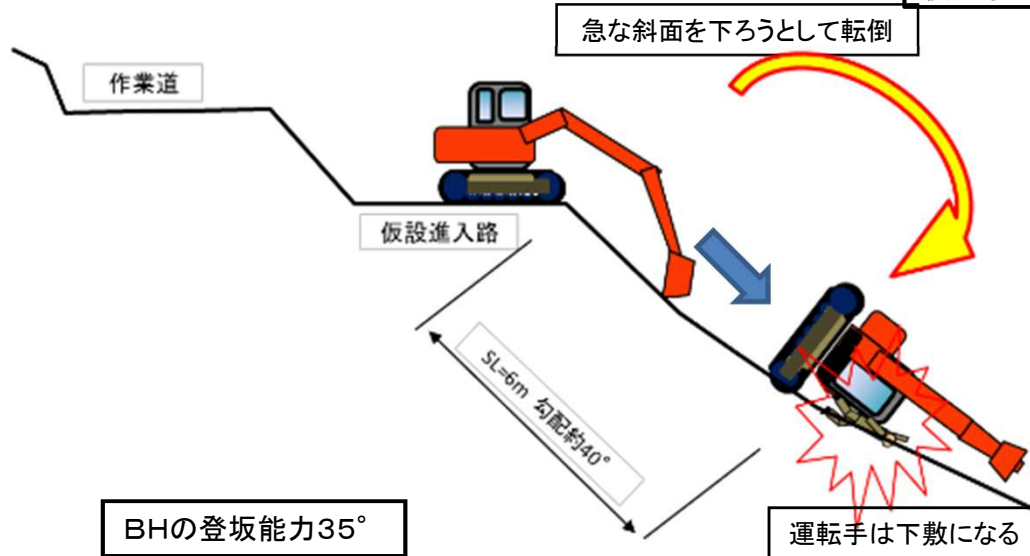
【事故原因】

- ・作業計画で、バックホウの進入路を定めていたが、書面を作成せず、当日は口頭で作業指示を行っていた。このことから被災者自らの判断により、作業計画でないルートで、機械能力を超えた勾配の斜面を下ったことで事故となった。
- ・当該バックホウにはシートベルトが装備されていたが、使用されていなかった。また、キャビンのドアが閉められていなかったため、バックホウから投げ出されることとなった。

【改善対策】

- ・バックホウ等車両系建設機械作業にあたっては、作業場所について地形、地質の状態を調査し結果を記録すること。また、その結果に基づき、使用する機種、能力、運行経路、作業方法を定めた作業計画書を策定するとともに、それを書面で作業従事者に周知し、計画どおりの作業を行わせること。（参照：安衛規則第154、155条）
- ・作業計画に変更が生じた場合は、作業計画書を見直し、それを作業員に周知のうえ作業を行わせること。（参照：安衛規則第155条）
- ・作業前の朝礼、KY活動で作業指示書をもとに、作業員へ当日の作業内容を周知し、現場の安全確認を行うこと。
- ・路肩、傾斜地等であって、車両系建設機械の転倒又は転落の危険が生じる恐れがある場所においては、運転者にシートベルトの着用（参照：安衛規則第157条の2）とキャビンのドアの閉止を徹底させること。
- ・ドアを閉めた場合、外部との連絡に支障が出る恐れがあることから、無線機の使用等必要な対策を講ずること。

事故状況図



事故現場写真

【分類】 土工 バックホウ移動

【被害状況】 業者人身 1名 死亡(外傷性心破裂)

13

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

バックホウ0.45m³を移動中、進入道路上空5mの位置にあるNTTケーブル上下2本にアームを引っ掛け、下部電話ケーブルを切断するとともに、上部光ケーブルの支持線を損傷させた。また、それに伴い電柱3本が傾斜した。

【事故原因】

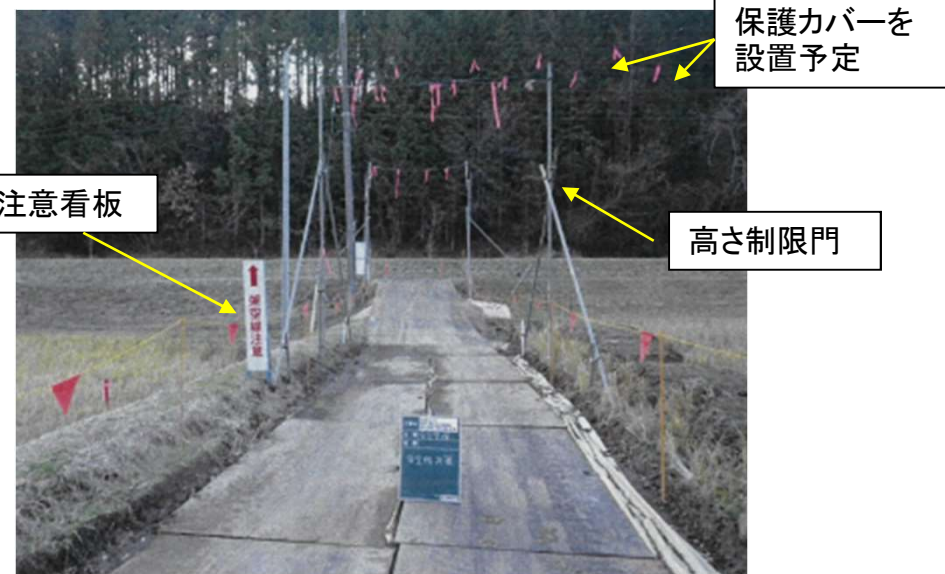
- ・保護カバー及び目印の設置前に工事を行った。（架空線注意喚起看板の設置のみ）
- ・バックホウが架空線の下部を移動する際、監視員を配置しなかった。
- ・バックホウのアームを十分にたたまないでアームを立てた状態で移動した。
- ・当日のKY活動において、架空線付近での作業は無いとして危険を周知していなかった。重機オペレーターも危険性の認識が希薄であった。

【改善対策】

- ・目印、保護カバーの設置後に作業を行うことを徹底する。
- ・架空線近くの作業等の前には現場代理人に報告し、監視員の配置を徹底する。
- ・架空線手前に、高さ制限門を設置し、再発防止に努める。
- ・毎朝作業前に本日の危険箇所・架空線・埋設位置を全員に周知させ、休憩後の作業前に再度確認する

対策状況写真

事故状況写真



【分類】 土工 BH移動

【被害状況】 公衆災害 ・電話回線の不通 4軒・20時間
・光ケーブル(支持線)損傷 通信には影響なし ・電柱3本傾斜

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械転倒事故）

【事故概要】

ミニバックホウによる除雪作業において、重機を車両に積み込もうとした際、重機ごと転倒し被災者がその下敷となり、病院に搬送されたが死亡した。

【事故原因】

- ・被災者が、朝のミーティングで指示のあった重機機種（0.25バックホウ）と異なる0.044m3ミニバックホウを会社から現場に搬入し、作業を行っていた。
- ・被災者は、重機を積み下ろしする際に使用する道板を固定する箇所が無い車両（2tonダンプ）を用い、道板が外れる恐れのある状態で、積み下ろし作業を行った。
- ・被災者は、転落・転倒の恐れがある作業にもかかわらず、シートベルトを着用していなかった。

【改善対策】

- ・作業手順など労働者が従事する業務に関する安全又は衛生のために必要な事項について教育の徹底を図ること。（労働安全衛生規則第35条）
 - ・重機をトレーラ又はトラック等に積載して移送する場合は、登坂用具又は専用装置を備えた移送用の車両を使用し、道板については十分な長さ、幅及び強度を有するものを用い、キャタピラの回転により荷台から外れないような、爪付きのもの又は外れ止め装置の装備されたものを使用する。（土木工事安全施工技術指針第4章、第3節の1参照）
 - ・積み込み・積卸し作業時に転倒・転落の恐れがある場合は、誘導員を配置する。（安衛規則第157条の2参照）
 - ・積み込み・積卸し作業は、雪や凍結によりスリップする危険が無いことを十分確認のうえ実施する。
- ＜シートベルトの着用の徹底について＞
- ・路肩、傾斜地等であって、車両系建設機械の転倒又は転落の危険が生じる恐れがある場所においては、運転者にシートベルトの着用（参照：安衛規則第157条の2）を徹底させること

事故現場写真1



(使用していた道板)
ペロ部分の穴にピンを、
刺し、車両に固定するもの。
今回の車両には、ピンを
刺す穴が無かった。

事故現場写真2



【分類】 土工 BH移動

【被害状況】 業者人身 1名 死亡 外傷性血胸

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

河川内工事にて仮設道路を、バックホウが移動中に、アームでNTT架線2本を引っ掛け、1本を切断しもう1本を損傷させた。

【事故原因】

- ・事前にNTT線を確認していたが、NTT架線は地上より6.5m上であったため、重機等の通行の支障はないとして、事故の可能性があるにもかかわらず、防護管や蛍光テープ設置等の安全対策を怠った。
- ・上記により、当該架空線についてKY等でも取り上げず、事故時は見張り員も配置していなかった。

【改善対策】

- ・接触の恐れのある架空線について、防護管等を設置するとともに、地上部に注意のぼり旗を設置し、注意喚起を図る。
- ・架空線近接作業について、見張り員の配置を徹底する。
- ・現場内の架空線の地上高や架空線に接触する恐れがある重機作業時の危険要因について、必ず確認を行い、日常の安全活動にて現場代理人または主任技術者が、安全管理実行を徹底する。

事故状況写真



対策後状況



【分類】 土工 BH移動

【被害状況】 公衆災害 ・NTT線1本切断、1本損傷 13回線不通 約5時間

令和3年度に建設工事で発生した事故事例（架空線事故）

【事故概要】

バックホウを仮設坂路後進でブームを上げたまま移動させたところ、ブームにワイヤーロープ(支線)が接触していることに気づかず、そのワイヤーロープを引っ張ることにより、対岸で接続していた別のワイヤーロープを切断した。その際繋がっていた電話線も引っ張られ断線した。

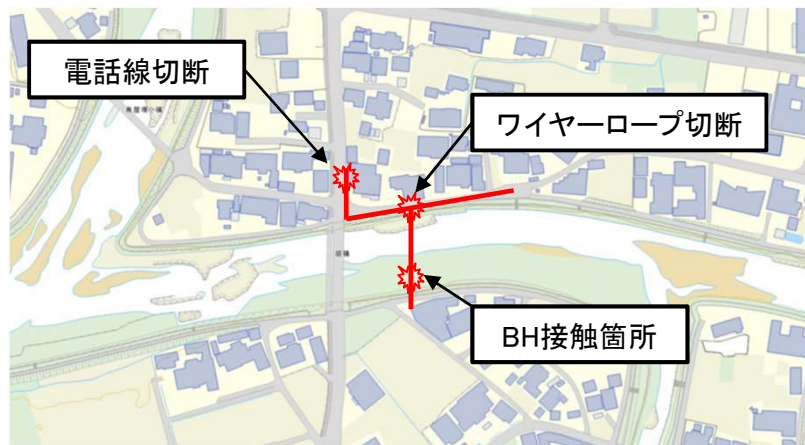
【事故原因】

- ・誘導員を配置せずに移動したこと。
- ・重機を移動する際にブームを上げたまま後進して移動したこと。
- ・注意表示の明示をしていなかったこと。

【改善対策】

- ・架空線下を通行する際は誘導員を配置し、重機周辺状況の確認、注意を行う。
- ・重機が通行する経路にある架空線に、注意表示の明示をする。
- ・作業員に対して、架空線下を通行する際の誘導員の配置や、移動する際はブームを下げて前進して移動するなどの再発防止対策について教育訓練を実施し、安全対策を再徹底。

事故現場状況図



【分類】 土工 BH移動

【被害状況】 公衆物損 一軒電話不通 24時間

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（架空線事故）

【事故概要】

バックホウを旋回させたところ、NTT電柱支線にブームを引っ掛け電柱が傾いた。これに伴い、NTT及びケーブルテレビ線が引き抜かれ、住宅のテレビ及び電話が不通となった。

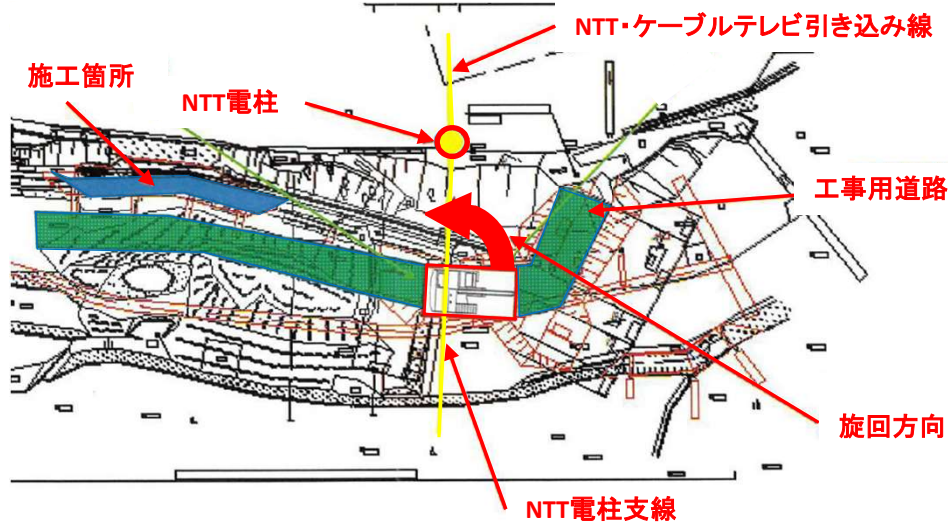
【事故原因】

- ・頭上注意の看板や三角旗による明示が未実施で現地の安全設備が不足していた。
- ・受注者の作業員に対する安全教育が不十分で、バックホウの運転手は、現場状況を十分把握していなかった。

【改善対策】

- ・バックホウ移動の際は、見張員を配置する。
- ・NTT電柱支線にリボンを取り付け、視認性を向上させる。
- ・バックホウに架空線接触防止センサーを設置する。
- ・バックホウ運転席入口ドア及びキャビン前面に架空線注意の表示を行う。
- ・新規入場者教育及び危険予知活動表に、架空線に対する安全対策を記載する。
- ・危険予知活動時に架空線の指差し確認を行う。
- ・安全訓練において、過去の事例を本工事に適用してシミュレーションを行い、作業における注意点を作業員に教育を行う。

事故現場状況図



【分類】 土工 BH移動

【被害状況】 公衆物損 NTT及びケーブルテレビ線切断 1戸 3時間55分不通

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（架空線事故）

【事故概要】

現場から資材置き場へのバックホウ移動中、アームを上げたままだったためNTT架線及びワイヤーに接触しワイヤーが切断された。この影響でNTT通信線が切断された。

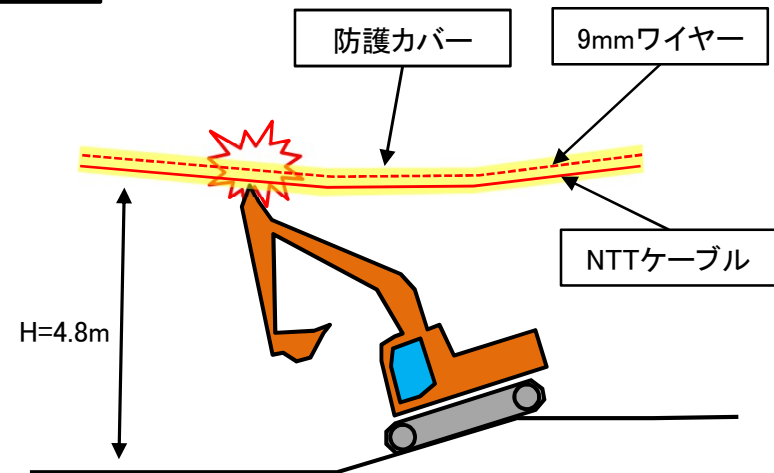
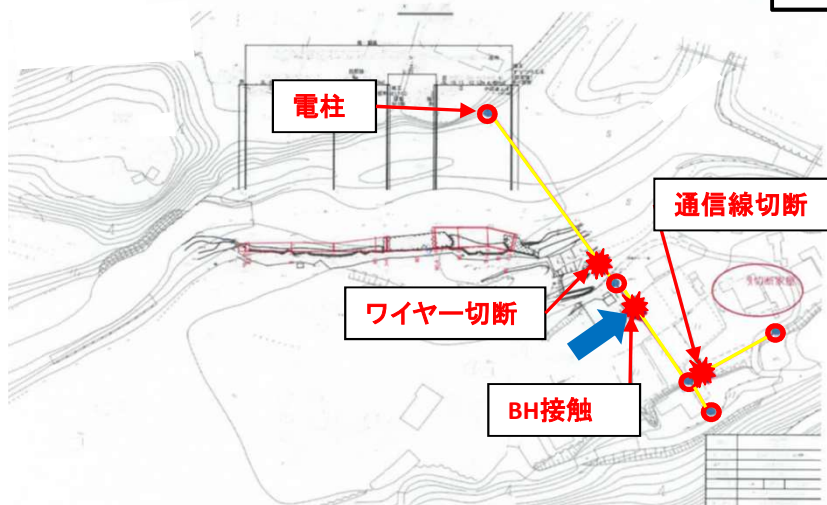
【事故原因】

- ・監視員はいたが監視が確実に行われていなかった。
- ・受注者の作業員に対する安全教育が不十分だった。

【改善対策】

- ・架空線の下はアームを下げたまま移動する。
- ・バックホウ移動の際は、監視員を確実に配置し、ホイッスルによる誘導を行う。
- ・バックホウ運転手に、架空線付近では監視員なしでの作業をしないことを徹底する。
- ・バックホウに架空線接近警報システムを設置する。

事故現場状況図



【分類】 土工 BH移動

【被害状況】 公衆物損 NTT通信線切断 1戸 6時間不通(実害なし)

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（架空線事故）

【事故概要】

切土作業中、バックホウが次の作業位置に移動していたところ、大型土のう側の地盤が沈んだことによりバランスを崩した。重機の姿勢を立て直そうとしたところ、市道を横断する中部電力電柱の引張り線にブームを引っ掛けアンカーを引き抜いた。

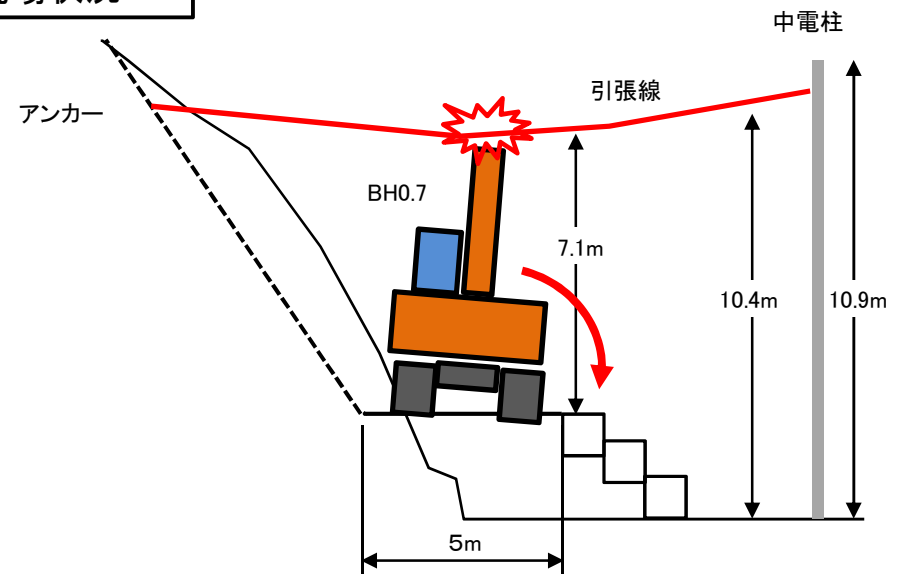
【事故原因】

- ・大型土のうで盛土法尻部を抑えていたが、重機足場には表土を利用していた。降雨後に作業したため、ぬかるみが生じ重機が傾いたこと。
- ・作業前日は降雨があり、当日の危険予知活動で重機足場の点検を促していたが、現場作業員が土質の状態の確認を怠ったこと。

【改善対策】

- ・重機足場等に使う土材料は良質土とする。
- ・降雨後に現場作業をする時は、作業員全員で重機足場の土質の状態を確認する。
- ・架空線の位置を示す看板を増設する。
- ・バックホウのアームに注意喚起ステッカーを設置する。

事故現場状況



【分類】 土工 BH移動

【被害状況】 公衆物損 中部電力引張線引抜(停電なし)